



Bangladeshの難民キャンプで支援を受けたロヒンギャの子どもたち

World YMCA NEWS

2018
6

Bangladesh YMCA ロヒンギャ難民支援プロジェクト -アジア・太平洋YMCA同盟

ミャンマー西部のラカイン州に住むイスラム系少数民族のロヒンギャは仏教徒が大多数のミャンマー国内で宗教などの違いから差別を受けてきました。1982年に改正国籍法(現行国籍法)が施行されると、ロヒンギャ族は隣国 Bangladesh からの「不法移民」として扱われるようになり、国籍も与えられなくなりました。

ロヒンギャ武装勢力による国籍などを求める襲撃をきっかけに、2017年8月25日からミャンマー軍主導によるロヒンギャ族への武力行使が始まりました。多くのロヒンギャ族が地域の仏教徒とミャンマー軍により村が燃やされたり、襲撃されたりしたため、 Bangladesh の国境を越えて、避難しました。

現在60万人のロヒンギャ難民が隣国 Bangladesh の南東にあるコックス・バザール県にあるウキヤ、ウボジラ郡の仮設シェルターに居住しています。そのうち7,000人の避難家族は、 Bangladesh 南部のウキヤ、ウボジラ郡に新しく設置されたハキンパラ難民キャンプで生活しています。他の救済機関の手が届いていない地域だったため、 Bangladesh YMCA 同盟はこの難民キャンプに暮らす1,500の難民家族の支援をしました。

国内や海外の大半の救済機関が食糧支援を始めた一方で、YMCAは2017年11月の現地調査をもとに、冬の寒さから身を守るための暖かい子ども服と毛布の配布を決めました。



Bangladesh YMCA 同盟のスタッフと数名の地域YMCAの総主事、ボランティアから構成された支援活動チームによる配布は母子家庭を優先し、1,500家族がダブルサイズの毛布と暖かい子ども服のセットを受け取りました。多くの子どもたちが配布場所に来て、両親の代わりに物資を受け取り、笑顔で嬉しそうに家族のもとへ戻りました。受け取った家族からは「この寒さの中で暖かい服と毛布はとても貴重なものだった」と深い感謝が伝えられました。

Bangladesh YMCA 同盟から派遣された支援活動チームは、このプロジェクトが宗教の違いを越えた働きができたことに感謝していますと振り返っています。

アジア・太平洋YMCA同盟ホームページより
http://www.asiapacificymca.org/joomla/index.php?option=com_content&view=article&id=469:bangladesh-ymca-rohingya-refugee-relief-response&catid=116:disaster-response&Itemid=429

障がいを持つ人とともに社会貢献 「Y Food and Love」プロジェクト -シンガポールYMCA



シンガポールYMCAはエンパワーメントプロジェクト「Food and Love」に取り組んでいます。このプロジェクトはユースがお菓子(伝統菓子やケーキ)などを作り、高齢者センターなどへ配布する活動で、さまざまな人たちと触れ合う機会となっています。今回は障がいを持つユースとボランティアが共に活動しました。

2018年3月3日、APSN(成人知的障がい者支援センター)のメンバー15人とYMCAのボランティア29人は協力し合って、180個のマフィン焼き、そのマフィンと生活必需品を賃貸アパートに暮らす70名の高齢者に届けました。

APSNのメンバーのSiti Datimahさんは「マフィンを渡すことができるととても嬉しかった。部屋を訪問したことも楽しかったので、もっと他の人の手助けもしたい。」と語り、YMCAボランティアのMorris Ngiamさんは「日常の中で小さなことにも感謝すべきであると気付きました。」と話しました。

APSNのインストラクターのSiti Hajar Binte Aliさんは「このプログラムには大きな価値があると期待しています。APSNのメンバーが友だち以外の人と交わる機会になると同時に、高齢者への奉仕を通して社会に貢献できると気付く機会となりました。」と述べました。

「Y Food and Loveプロジェクト」は11月まで続き、高齢者住居の清掃も計画されています

シンガポールYMCAのホームページより
<http://www.ymca.org.sg/ymcas-new-project-empowerment-enables-persons-with-intellectual-disabilities-to-give-back/>

YMCAが全米で多様性に優れた 企業・団体に選ばれました -米国YMCA

2018年4月6日、経済誌フォーブスは全米の多様性(人種や性別が異なる人材の登用)に優れている企業・団体のベスト250のランキングを発表しました。米国YMCAは15位にランクインし、コミュニティでの活動を中心に取り組む団体の中ではトップとなりました。

現在、YMCAはアメリカ国内の2,700の地域に1万の拠点を持ち、非常勤を含む25万人のスタッフが2,200万人に対してサービスを提供しています。YMCAはユース世代への働きかけや、人々の社会貢献を通して、より暮らしやすいコミュニティを創出してきたことが評価され、ランクインしました。

Lynda Gonzales-Charezさん(アメリカYMCA同盟の副会長・多様性推進の責任者)は「私たちは多様性に富むコミュニティとより強固な繋がりを作るために、様々な文化や背景を持った人を組織に受け入れ、誰もが組織に参画する機会を持つ団体として取り組んできました。この取り組みが評価されたことは、とても光栄です。」とコメントしました。

この調査は、全米の1,000人以上の従業員を有する企業や団体を対象として2017年8月に実施され、3万人の従業員向けに多様性、ジェンダー、民族性、性的指向、年齢、障がいについての質問を送り、回答をもとにランキングが作成されました。少数民族、女性、50歳以上からの回答には大きな比重が与えられ、ランキングに反映されました。企業・団体の経営陣の男女比や、企業が多様性に対して率先したコミュニケーションがあるかということも内容に組み込まれました。また、女性、年配者、少数民族の従業員から多様性について低く評価され、他の従業員からは高く評価された場合にはマイナスの要因とみなされ、減点されました。

YMCA of the USAホームページより
<http://www.ymca.net/news-releases/forbes-recognizes-the-ymca-as-one-of-americas-best-employers-for-diversity>

World
YMCA
NEWS
2018.6

発行
2018年6月1日
日本YMCA同盟
03-5367-6640
info@ymcajapan.org